



Guardian Angels

Safety Patrol Guidance 2008

Be Seen

Be Heard

Make a Difference

特定非営利活動法人

日本ガーディアン・エンジェルス

www.guardianangels.or.jp

防犯パトロール

1 目的

- ・ 姿を見せて住民に安心感を与え犯罪を抑止する
- ・ 地域や安全への関心を高める
- ・ 地域の連帯感を感じる
- ・ 体感治安（肌で感じる安心度合い）を回復する

・ パトロールをほかのスタッフ
地域力

・ 地域力
個人力

・ スタッフをON
にする。

2 心構え

- ・ 自分のまちが好き。よいまちをつくろうと思う
- ・ 普段から社会のルールやマナーを守る
- ・ 相手の話をよく聞き、相手の気持をわかろうと努力する
- ・ いつも自分だったら何ができるかを考える
- ・ 自分と仲間の安全を確保し責任ある行動や言動ができる
- ・ チームワークを重んじ、お互いを支えあい尊重しながら協力する
- ・ 礼儀正しく社会のよき模範となる
- ・ 誰とでも公平に接する
- ・ 冷静に対応できる

・ 自身防犯
- 周囲の人

47538団体

3 取り組みへの姿勢

防犯パトロールでは、「察する力」が重要です。地域や人を正確に観察します。音に敏感に反応でき、その音は何の音かわかるようになります。人との対話でも、相手の表情、声の抑揚、調子でその場の様子を察します。話を良く聞き、耳と心を傾けて相手をわかろうと努力します。

また、状況を正確に把握する冷静さも必要です。

- ・ 防犯活動とわかる服装をします（腕章・キャップ・ジャンパー・ベストなど）
- ・ チームワークで行動します。勝手にリーダーやパートナーの視野から、外れる個人行動は慎みます
- ・ 気を利かせて、一歩踏み込んだ行動をします
大丈夫かなと思ったら、「大丈夫ですか？」と聞きます。
危ないかなと思ったら、「危ないですよ」と声をかけます。
- ・ 困っている人がいれば進んで手伝います
きょろきょろしていたら、道に迷っているかもしれません。落し物を探しているかもしれません。「何かお探してでしょうか？」と声をかけます。
- ・ できるだけコミュニケーション（対話）で、まちの問題を解決します。
まちのコミュニケーターとなりましょう。

参考)：人と人のコミュニケーションは、苦手な人でも何度も練習をしていると慣れます。

- ・ 出会う人には、挨拶や声をかけ、穏やかな表情で時間の許す限り親切丁寧に対話します
- ・ 秩序を乱す行為には、見てみぬふりをしないで声をかけ、相手に気づいてもらえるようにします

※＜声かけ1＞

- ・ 場面を想定して練習しましょう。
- ・ 関係機関と連携して、必要な情報や知識の習得を心がけましょう
- ・ 何も起きなかったパトロールを最大の喜びと感みましょう

■具体的な活動内容

- ・ 地域の巡回（挨拶、声かけ、対話）、環境美化、浄化など地域性に合わせた活動をします。ですから活動地域では、何が住民を不安にしているのかを知ることが大事です。
- ・ 私たちは、一般の市民です。防犯活動を行なうにあたり、自己責任を自覚して怪我をする、事態をさらに悪化させる、他人に迷惑をかける行為はしません。
- ・ 非武装、非暴力を原則とします。

4 パトロールの前に

- ・ 人数と参加者名の確認（4人以上が好ましい）
- ・ ボディチェック
持ち物を確認します。不必要な物は持ちません
- ・ 体調チェック
参加する全員が、お互いの体調をいたり、体調のすぐれないときには、活動は休みます
- ・ 役割分担（その日のリーダー、サブリーダー、記録、救急、連絡担当など）

■役割分担

- ◆リーダー 今日のパトロールの責任者です。迅速な判断と行動力で目前の問題に取り組みます。前方を見ます（読みとるように＝スキャンする）。必要に応じ指示を出します。
- ◆サブリーダー 後方を含めて全体の視野をカバーし、リーダーに伝達します。
- ◆記録担当 時間の管理をします。何時にどこから出発したか、何時にどこで活動しているのか、何時に何が起こったか。時計と筆記用具メモ帳は、いつでも使えるようにしています。

- ◆連絡担当 110番、119番に通報します。
担当がいけない場合には、サブリーダーが行います。
基地へ活動の様子を連絡します。
- ◆救急担当 小さな怪我や泥酔者の応急手当をします。必要に応じて応急救護（人工呼吸など）を行ないます

※全員が、当事者を困むことはしません。対応する以外のメンバーは、周囲の安全の確保、集まってくる人の整理、連絡や記録を担当します。貧血などで倒れた人は、3～4人に囲まれると酸素が不足してさらに苦しくなります。

■持ち物

武器または武器に準ずる物、武器のように見える物は相手を怒らせる、怖がらせるなど誤解の原因となりますので持ちません。

◆個人で携帯する物

- 時計
- 身分証（運転免許証、名刺など）
- 携帯電話
- 手袋
- 筆記用具とメモ帳
- ライト（懐中電灯）
- ホイッスル（笛）

◆グループで携帯する物

- ゴミ袋
- 防犯ブザー
- カメラ
- 活動紹介パンフレット
- 救急用品 プラスティック・グローブ（ゴム手袋）、バンドエイド、洗浄綿、三角巾、ミネラルウォーター（可能であれば持参します。酔いを醒ます、傷の泥を洗うなど便利に使えます）
（人工呼吸用携帯マスク）

※ 医師が行なう行為、薬品を使う治療行為は原則的にできません

■出発の直前には

□緊急時の連絡系統の確認

□その日の自分のパートナーを確認します

□スケジュールとエリアの確認をします

今日はどこを回るのか、何時まで回るのか、途中で帰る人がいるかなど

□今日の重点目標や視点をリーダーから、簡単にお話します

□参加メンバー一人ひとりの目標を共有します

□アキレス腱を伸ばすなどの準備運動をします

5 パトロール中

■好感がもてるパトロールとは

- ・ 真面目な態度であること
- ・ 姿勢がよいこと
- ・ 私語が少ないこと（私語が多いと集中力も削がれる）
- ・ 人の流れに歩調が合っていること
- ・ 警戒する気持を保つこと（適度な緊張感）
- ・ 明るく元気に挨拶ができること
- ・ 市民防犯の（プロ）意識を高く持ち、自信に溢れていること

■パトロールの方法

- ・ 目に入る光景を『スキャン（読み込む）』します
「よく見る（観る）」「よく聞く（聴く）」「よく動く」
- ・ 時計を気にします

※＜時間の重要性＞

例) 記録をとるため

例) 方向を伝えるため

例) 通報するため

- ・ 気がついたことは、すぐにリーダーに伝えます。
- ・ リーダーは、どうするかを判断します（市民のできる限界を理解していること。仲間と自分の安全を確保できるかどうか判断基準です。決して無理はせずに警察や消防に通報します）
- ・ 普段と違う様子は、現場でメモし、終了後に地図に記しをつけて残します
- ・ 通行を妨げているような自転車を整頓します
自転車のかごのゴミはきれいにします。但し個人の所有物の可能性があるものは注意しましょう
- ・ 歩き方（フォーメーションは、）交通や歩行者を妨げないようにします。

■通報の仕方

最近では、119番と110番が連動していますが、毎回確認してください。私たちが街をパトロールするにあたり、地元の警察や消防と連携することは大変重要なことです。困っている人々を助けることを目的にしていますが、事件や事故などに遭遇した際は、速やかに通報し、また、その解決に全面的に協力することは市民としての役割のひとつです。また、日ごろから情報交換などを欠かさずに行うことも必要です。



◆警察との連携

1. 情報交換

日ごろから、所轄の警察署生活安全課や地域の交番、派出所などにあいさつをするなどして、最新の犯罪情勢や傾向などを聞いておきます。

2. 通報&情報の提供

パトロール中に事件や事故を発見した際は、速やかに110番に通報します。また、現場に到着した警察官に名刺などの身分証を提示することで速やかに引き継ぐことができます。

3. 現場でのサポート

現場に到着した警察官が行動しやすいように、できる限りのサポート（誘導、群集整理など）を行います。

◆消防との連携

1. 情報交換&講習会の実施

日ごろから、所轄の消防署警防課や出張所などにあいさつするなどして、情報交換を行います。また、救急救命講習などを依頼することもできます。

2. 通報&情報の提供

パトロール中に事故や災害を発見した際は、速やかに119番に通報します。また、現場に到着した隊員に正確な情報を提供します。

※<通報・伝達用紙>

3. 現場でのサポート

現場に到着した隊員が行動しやすいように、できる限りのサポート（誘導、群衆整理、車両等の安全確保など）を行います。

▼110 番のかけ方

事件や事故を目撃した際は、速やかに警察へ通報することが必要です。通常、110 番に通報すると、所轄の通信司令センターのオペレーター（警察官）が対応します。状況を報告する際は、「冷静に」「正しく」「要領よく」分かる限りの情報を伝えましょう。また、発生時間を必ず確認することが大切です。

●事件・事故発生時の通報 — 主な 6 つの質問

1. 何がありましたか？ — 事故ですか？ 事件ですか？
2. 場所はどこですか？ — まず区市町村から伝えます
3. いつですか？ — 何分ぐらい前ですか？
4. 犯人（当事者）は？ — 人相は？ 車両ナンバーは？
5. 現在どのような状況になっていますか？ — けが人などは？
6. あなたの氏名、電話番号は？



★ 携帯電話で通報する際のポイント

- ① 現在地を正確に確認すること
- ② 発生現場から離れないこと
- ③ 移動しながら通報しないこと
- ④ 通報後も電源を切らないこと

参考) 電柱や道路標識の「登録番号」で現在地を伝えましょう！

警視庁などでは、電柱や道路標識に割り振られた固有の番号から、瞬時に現場を特定するシステムが導入されました。電柱に地名と数けたの数字が記された標識管理番号があります。道路標識には数字が記された標識管理番号が取り付けられています。番号を通信指令台のパソコンに入力すれば、地図が即座にパソコン画面に現れ、警察署や近くのパトカーに指示できるようになっています。

▼119 番のかけ方

火災や急傷病者を発見した際は、速やかに 119 番に通報します。正確な状況を伝えるとともに、現場に到着した消防車・救急車を誘導し、サポートすることも必要です。まず、仲間を含めた自らの安全を第一に考えましょう。

火災の場合

1. 火事ですか？ 救急ですか？ — 火事です
2. 場所はどこですか？ — まず区市町村から伝えます
3. 何が燃えていますか？ — 状況を冷静に伝えます



4. あなたの氏名、電話番号は？
5. 近くに目標となる建物などがありますか？
6. 消防車のサイレンが聞こえたら誘導してもらえますか？ —現場がわかりにくい時は、誘導を行います。

救急（急傷病者、事故）の場合

1. 火事ですか？救急ですか？ —救急です（急病か事故か伝えます）
2. 場所はどこですか？ —まず区市町村から伝えます
3. 急病人、又はケガ人の年齢、性別は？ —正確な情報を提供します
4. 病人、又はケガ人の状態はどうですか？ —意識の有無、呼吸の有無などを正確に伝えます
5. 車から出ることができますか？（交通事故の場合）
6. あなたの氏名、電話番号は？
7. 近くに目標となる建物などがありますか？
8. 救急車のサイレンが聞こえたら誘導してもらえますか？
—現場がわかりにくい場所は、誘導を行います。



■もめごと、小競り合い、けんかの対応

まず状況を把握します。事態をさらに悪化させてはいけません。興奮して暴力を振るっているなど対応が困難だと感じたら、速やかに110番通報します。もめごとなど、コミュニケーションで解決できると判断した場合には、距離を開けて、穏やかな表情と態度で冷静に話しかけます。何を言われても感情的にならないように気をつけましょう。

当事者同士を、お互いが見えない場所に誘導します。野次馬がいると引っ込みがつかなくなる時があるので、状況を見ながら人目につかない場所に誘導する場合があります。

もめている状況が、本人の得にはならないと時間をかけながら気づいてもらいます。当事者が納得して帰宅するなどの安全が確認できるまで一緒にいます。どちらが良いか悪いかの判断はしません。

もめごとのない平穏な状態に戻す事を目的とします。

7 パトロール終了後

全員が無事に戻ったことを確認後、簡単な反省会をします。

一人ずつ自分が感じたこと、目標が達成できたかどうかを伝えます。

次回の予定を決めて、参加できるかどうかの確認をします。

リーダーは、全体の感想を述べます。

記録や引継ぎ事項をログに記入します。

※<活動報告書>

8 パトロールのテクニック

張りのあるパトロールを心がけ、工夫をします。

■間隔

歩く間隔は、どうしても狭まりやすいので、あえて開けます。

歩く場所にもよりますが、市街地では、2~4メートル以上、住宅地では、3~5メートル以上が目安です。リズムカルに拍子をつけてパートナー同士が出発します。

■フォーメーション

●=リーダー

(1) ダブル (偶数)

○ ○ ○ ● →
○ ○ ○ ○ →

(2) ダブル (奇数)

○ ○ ● or ○ ● →
→ ○
○ ○ ○ ○ →

(3) シングル

○ ○ ○ ○ ● →

(4) スイープ

↑ ↑ ↑ ↑ ↑
○ ○ ○ ○ ● ○

(5) エスコート

○ ○ ○ ●
◎ ◎ →
○ ○ ○ ○

(6) ジグザグ

○ ○ ○ ● ○ ○ ●
→ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ →

■スキャンとは

自分の視野に入る光景（音、声なども）を、正確に読みとり把握することです。ですから自分の役割によりリーダーは前方、列の右にいる人は右側を左にいる人は左側を重点的に観察し全体（360度）の視野をカバーします。

◆歩きながらスキャンする！ スキャン&アクション

スキャン

アクション

- | | | |
|---|---|-----------------------|
| 例) 門やドアが、開けっ放しである | → | 声をかける |
| 例) 聞きなれないガラスの割れる音、
こじ開ける音、人の叫び声が聞こえた | → | 近くに行き確認する |
| 例) 何度も普段見かけない車が通る | → | ナンバーや車種を控える |
| 例) エンジンをかけたままの車両 | → | 声をかける |
| 例) 焦げ臭い、異臭など | → | 注意しながら近づきます、
通報します |

◆立ち止まってスキャンする！

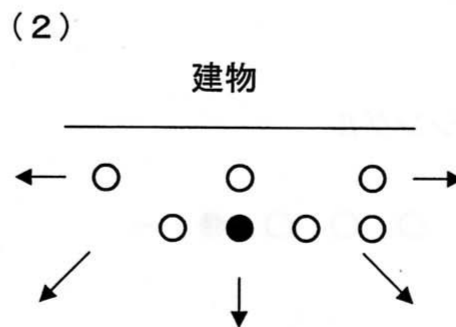
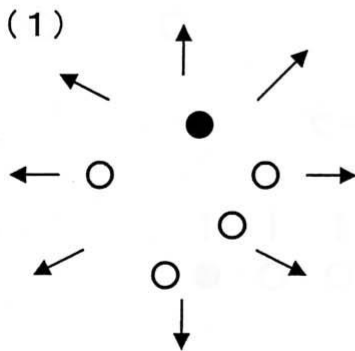
人やまちの動きが激しいなど普段と違う雰囲気を感じたら立ち止まってスキャンします。時と場合により、手の配置を使い分けます。

全員が外向きに立ち、全体（360度）の視野を観察します。

例) 交差点で待つとき

例) 不審な動きをする人物がいたとき

例) 腕を身体の前で組む→威圧感を与えるので注意しましょう



■ハンドシグナルの活用

騒音が激しい場所や、パトロールの人数が多く声が届きにくい、メンバーとの距離がある場合、静かな住宅街で迷惑をかけたくないときに活用します。

右に進む 左に進む 止まる 集まる 安全確認などのジェスチャーを決めておくと便利です。

例) 進みましょう →

例) 止まりましょう →

例) 列の組み方を変えます →

例) 安全を確認しました →

■セントラル・ステーション（基地）の設置

パトロールの様子を常に把握する場所や人を配置します。

基地の担当者は、参加者名、パトロールの様子、現在地、まちの様子をできるだけ詳しく聞きます。基地は自宅でもかまいませんが、活動の最中の受け答えなど全てのやりとりを正確に記録します。

事件や事故が発生した場合には通報します。担当部署に報告します。

記録は、証拠として提出する可能性もあるので保存しておきましょう。

パトロールが無事に終了し解散を確認するまで行います。

※<記録>

9 地域防犯活動まとめ

(1) 長続き対策

■目標を定めます。毎回違った目標にします。月ごとの目標、自分と団体とに分けて決めます。

■研修をします。関連機関で行なう講習会などに参加して、必要な知識や情報を取り入れます。防犯アイデアを出し合ひましょう。

■練習をします。こんな場合はどうする？などのシミュレーション・トレーニングを行います。

Q&A1：同じ人しか集まらないのです。

地域の安全を守り住民に安心を与えるという重要な役割を担っている使命感を自分と仲間を確認しましょう。活動をPRし仲間を増やしましょう。

Q&A2：何かあったら怖いのですが。

自分たちにできる範囲で活動します、範囲外の場合は警察、消防に通報します。こんな場合はどうするかとシミュレーションを行い、自分たちに何ができるか確認しましょう。

Q&A3：マンネリ化への対策がありますか。

アイデアを出し合ひましょう。

例) 被害者の気持になってまちを見る歩き方があります。被害に遭った方は、予防する重要性について 100%理解しています。安全に暮らせる幸せや喜び、

犯罪を許さない気持を持ちます。

例) 泥棒の視点でまちを見る方法もあります。車上狙い、自転車を盗みやすい機会、場所などはありますか。

例) 地域で頼りにできる場所や人は誰でしょう。地域の安全チェックリストを作りコミュニティをもっとよく知りましょう。

Q&A4: 実は一緒にやりたかったどこに連絡をすれば参加できるのだろう？

と考えている人は、以外に多くいます。

町内の回覧板や掲示板などに、次回の予定や連絡先、条件などを掲示し、できるだけ多くの住民に呼びかけます。

興味がありそうな方には一緒にやりましょう！今度ご一緒しましょう！

などと、こちらからお誘いしてお願いします。

(2) まちの見方

【地域を見る】

- ゴミ箱が溢れていない
- 散乱したゴミ（空き缶、食べ残しなど）がない
- ゴミの収集日や収集時間を知っている
- 落書きがない
- 違法に張られたチラシや看板がない
- 道路標識や消火栓、ガードレールなどがメンテナンスされている
- 地域を守るために動いている人が多く目に入る
- 小学児童の登下校時間がわかる
- 学校の通学路に見守る人がいる
- 挨拶や声かけをする人が多い

10 個人防犯力（危険を予知、回避）

地域でパトロールをするには、参加する人が危険を予知し回避できる力を身につけます。外出時には防犯スイッチをオンにします。

- 家（車）を出るときに、左右前方の安全を確認する
- 歩いている人はどんな人なのかよく観察する（会社員、高齢者、子ども）
- 人通りはいつもより多いか少ないか比べられる
- 駐輪中の自転車に鍵がついている
- いつもと違う様子（変化）に気がつく
 - ・ 人のみでなく、人の行動、まちの様子・状況なども
 - ・ 道路（水道、ガス）工事の開始

- 家や建物の建設の開始
 - 建設現場周辺の安全確保
 - 商店の開店や閉店
 - 長時間駐車している車
 - 引越し
 - 子どもが一人で歩いている
 - その日だけ極端にゴミが多い
- 立ち止まっている人は、なぜかと考えられる
 - 集まっている人は、なぜかと考えられる
 - 小競り合いや喧嘩を見たら自分に何かできるかわかる
(110番通報、声かけ、仲裁など)
 - ビルや家に電気がついているか (ついていないか)
 - ビルや家に人がいるか (いないか)
 - (不審な車の) ナンバーや特徴 (車種、色、運転している人) が言える
 - 人の特徴 (身長、体重など変わらない部分) が言える
 - 犬の吠え声の違いがわかる (痛い、警戒、甘えるなど)
 - 防犯ブザーや笛の音がわかる。
(発生場所を確認し必要であれば110番する)
 - 物が焦げる臭いや異臭は発生場所を確認し必要であれば119番通報する
 - 見かけない人が何度も通る
 - 正面を向いて歩く
 - 顔を下げないで視界を広く持ちながら歩く
 - 視点は、遠方に置く (100メートル以上)
 - 目に入る光景を口頭で伝えられる
 - 自分の背後にも気を配る
 - いつも会う人、始めて出会う人の区別ができる
 - 元気に挨拶をする
 - 進んで声かけをする
 - おはようございます、お疲れ様でした、ありがとうございます
 - 様子を伺う、探し物など不審な人にも進んで声をかける
 - 何かお探してでしょうか?
 - 知らない人とは腕2本分の距離を保って話をする
 - 相手の声の抑揚、手の動きを観察する
 - バッグ、貴重品は、車道側に持たない
 - 暗く人通りの少ない道は歩かない
 - 家に入る前から鍵がすぐ使えるように準備する

- 玄関（車）の鍵を開ける前に、周囲を確認する
- 携帯電話・メールをしながら歩かない（周囲への注意力が減少する）
- 時々後ろを振り返る
- 逃げ場が確保できる場所を通る
- 警察署（交番）、消防署（出張所）、24時間営業店舗等の場所を常に把握している
- ズボンの後ろポケットやハンドバッグの口が開いた状態で財布を持たない
- ハンドバック等肩ひもが付いている場合は手を添えて歩く
- 暗い道や慣れていない道（近道）は通らない
- ヘッドフォン・イヤホンなど聴覚を制限する場合十分に周囲に気をつける

つづく



コミュニケーション資料「声かけ チェックリスト」 2008年（前期）

- 一人ひとりと向き合い、誠意が伝わるように心がけ楽しい会話
- 明るく元気にはっきりと、目をみて挨拶する
- 自分の素性を名乗ること（自己紹介）
怪しい者ではない、不安を与えないために
例）この近所の防犯パトロール隊です
- 感じ良く話し接すること（感じがいいか、悪いか）
- 評価や議論はしない。誠実で真面目な態度で臨むこと。
×「間違っているよ！」「すばらしいことだ！」
×「ダメだ！」「止めろ！」
- 自分の昔話、自慢話、説教はしない。しつこくしない付きまとわない
- 気にかけていることを感じさせる
例）何かできることあるかなあ？
- 話を聞く、相手におしゃべりさせる環境を作る
相槌は、相手の気持ちを汲みながら「そうか、それは大変だったね」
例）「最近、どお？」「今日は、何時までいるの？」
- あせることなく時間をかける。（最低3ヶ月）
例）「毎週金曜日に（今度は〇〇日）に回っているよ」
- その場から離れるときには期待の芽を残して
君を気にかけている、「何かあったら言ってね」
- 相手を尊重すること。同じ目線で接すること。
媚びない、偉そうにしない（相手は敏感に察する）気軽に身体に触らない
- 臆病にならない、積極的な姿勢で臨むこと
自信を持つ（声をかける本人が自信や希望を持っているか？）
- ルール違反や違法行為は、指摘する。やって良い事、悪い事を気づかせる
注意の仕方を工夫する（提案型：こうしたほうがいいよ）
相手に、自分の行動には責任があることを自覚させたら大成功
- 相手をよく観察する（トレーニング資料参照）
テンション、声の抑揚、動作（特に手の動き）、表情など
- ユーモア・センスと冷静さ
懐（ふところ）の深さ、心のゆとりを持つ
- 居場所づくりを心がける
悩みや相談は真剣に聞いてあげる
喜びとやりがいを与えられる人、明るく信頼される人になりましょう